



# しょうれん 力障連「わ」かい報ほう

http://challenged-catholic.net/ No.100 2023.12.19 はっこう発行

二〇二三年十二月十九日発行（毎週火曜日）AJU一五〇五二号 昭和五十四年八月一日 低料第三種郵便物承認 定価一〇〇円

## もくじ 目次

かんとうげん か にほん しょうがいしゃれんらくきょうぎかい ささ かい 巻頭言に代えて 日本カトリック障害者連絡協議会を支える会 ……	かいちょう まえだ まんよう すつききょう 会長 前田 万葉 枢機卿	1
しょうれん ながさきぜんこくたいかい じつこういんかい 第14回カトリック障害者連絡協議会長崎全国大会 ……	しむきょくちょう 片岡 ひでかず 事務局 片岡 英和	2
ながさきたいかいきょうこうえん き 長崎大会基調講演を聞いて ……	しむきょくちょう 小池 まさお 事務局 小池 政男	4
ながさきぜんこくたいかい ぜんたいかい 長崎全国大会の全体会 ……	ながさききょうく しさい 紙崎 新一 長崎教区 司祭 紙崎 新一	8
だい かいにほん しょうがいしゃれんらくきょうぎかいながさきぜんこくたいかい さんか 第14回日本カトリック障害者連絡協議会長崎全国大会に参加して ……	つるまき けんじ 鶴巻 健二	9
だい かい しょうれんたいかい さんか 第14回カ障連大会に参加して ……	しおさき みほこ 塩崎美穂子	10
だい かい しょうれんながさきぜんこくたいかい さんか 第14回カ障連長崎全国大会「ともに…つんのうで！」ボランティアに参加して ……	ながさききょうく いなざきょうかい ひさまつ ちはる 長崎教区 稲佐教会 久松 千春	11
だい き やくいんしょうかい 第14期 役員紹介 ……		12

## かんとうげん か 巻頭言に代えて

しょうきょうく しゅうどうかい がっこう かくしゅだんたい かくい  
小教区・修道会・学校・各種団体 各位

## 「クリスマス募金 つんのうでシノドス」

にほん しょうがいしゃれんらくきょうぎかい ささ かい  
日本カトリック障害者連絡協議会を支える会  
かいちょう まえだ まんよう すつききょう  
会長 前田 万葉 枢機卿

### 十 主の平安

きょうかい たいこうせつ しゃかい しわす むか  
教会は待降節を、社会も師走を迎えました  
が、皆さまにはご清祥の事とお慶び申し上げます。  
また、早いですが、クリスマスと新年  
のお喜びを申し上げます。

にほん しょうがいしゃれんらくきょうぎかい しょうれん  
こもんしきょう ひ しょうれん  
の顧問司教として、日ごろからカ障連へのご  
理解、ご支援をいただき感謝申し上げます。  
カ障連は1982年京都で設立大会を開催し、

いこう ねん どみな しえん きょうりよく  
以降3年に1度皆さまのご支援ご協力をいた  
だきながら、各地で全国大会を開催してまい  
りました。ところが、2020年からのコロナ  
禍のため、2021年開催予定の長崎大会が延  
び延びになり、少なくともこの3年間、長崎  
の皆さまには大変なご心労を続けまし  
た。そんな中で、この2023年10月14、15  
日に長崎大会開催の運びとなり、大変盛大な  
大会となりました。これも長崎の皆さまはじ  
め全国の関係者のご支援とご協力のためもの  
であります。

「ともに…つんのうで！」のテーマは、ながさき  
らしさとシノダリティを良く表したものでし  
た。「つんのうで」で思い出すのは、子ども  
のころながさきけんごとう  
のころ長崎県五島でのクリスマスミサです。  
まず夕方は本教会での聖夜ミサ、そして、そ  
の後それぞれに深夜ミサの巡回教会へと、「つ  
んのうで」向かった頃のことを思い出します。

ひとつのたいまつがふたつになり三つになりました。いつの間にか大勢が「ともに…つんのうで」いたのです。

教皇フランシスコも、今年の病者の日に当たり、善いサマリア人の「この人を介抱してください」というテーマを示し、シノドスの精神を説いています。

「一緒に歩んでいけば、体調を崩したり、疲れや想定外のことで途中で動けなくなったりする人がいるのは当たり前のことです。そういうときにこそ、わたしたちは自分の歩みを確認できます。つまり、本当に一緒に歩んでいるのか、それとも同じ道にはいても、それぞれ、自己の利益を優先し、わが道を行っていないかということです。皆さんによく考えてみてほしいのは、まさに虚弱さや病を知ることで、近しさ、あわれみ、優しさという神の流儀をもってともに歩むことを学べるのだ」と。

シノドスにふさわしいテーマ、この「ともに…つんのうで！」が、長崎から全国に、そして全世界に実現しますように、「十月の長崎からやシノダリティ」と、祈念しています。

昨年も当「支える会」に90万円近い支援金をいただきましたことを心から感謝申し上げます。障害者も健常者も、ともに「つんのうで」天国への道を歩むことができますように、今年も全国の信徒をはじめ小教区、修道会、学校・幼稚園、施設・団体関係者の



ながさきたいかいかいじょう ながさきじゆんしんだいがく  
長崎大会会場 長崎純心大学

皆さまにご寄付をお願いしたいと思います。振込用紙を同封させていただきますので、よろしくお願いを申し上げます。

## 第14回カトリック障害者 連絡協議会長崎全国大会

しょうれんながさきぜんこくたいかいじつこういんかい  
カ障連長崎全国大会実行委員会

じむきょくちょう かたおか ひでかず  
事務局長 片岡 英和

2023年10月14日（土）～15日（日）、長崎純心大学を会場として第14回カトリック障害者連絡協議会長崎大会が開催されました。九州において開催されるのは初めてであり、また長崎という立地を考えるとどれぐらいの人が参加してくれるか不安でしたが、長崎教区の参加者も含め総数180名の方の参加をいただきました。

ただ、長崎教区の総信徒数は約6万人であり、そのうえで参加者数が50名であったことにはやはり物足りなさを感じました。長崎における障害者への興味の薄さ、また実行委員会としての周知の弱さを感じた部分でもあります。しかしボランティアとしては、のびんずやくにんさんかたいかい延べ人数約450人の参加をいただき、大会を無事進めていくうえで大変な力となりました。ボランティアに参加して下さった層も幅広く、高校生から上は80代の方までさまざまな形でかかわって下さいましたことにたいへん感謝いたします。一般参加者、またボランティアとして参加して下さった方々がこの大会から感じ取ったものが今後の長崎教区における障害者への意識の変化につながっていくことを切望いたします。

大会の内容としては、まず初日午前中のカ障連総会から始まり、大会開会式、基調講演から分科会、懇親会へと続き、2日目には全体会、感謝ミサ、閉会式とプログラムされ

ていました。オーソドックスなプログラムで  
 すが、熊本学園大学元教授の東俊裕先生によ  
 る『インクルーシブ防災』に関する基調講演  
 では、現代社会において災害時における  
 障害者への対応に触れ、参加者の方からは  
 とても良かったという声もいただきました。  
 障害者という概念が医療モデルから社会モデ  
 ルへと変化していく中で、社会として、また  
 障害者自身がどういった変化を必要とされる  
 か、そこに考えをめぐらすきっかけとなるも  
 のだったと思います。

全体会では、前日の分科会で分かち合った  
 ことをメインにおき、それぞれ感じたことを  
 質疑形式で参加者の方から発表していくとい  
 う形がとられました。こちらも良かったとい  
 う声が多く、ほかの分科会ではどのような話  
 がされていたのか、また障害者自身が思っ  
 ていることを率直に述べることによって、障害  
 の種類によってはまた違う考えを持っている  
 ことを直接感じる事が出来たようです。  
 不思議なもので何人かが意見を出していく  
 と、やはり自身の中に秘めた思いがあるのか  
 はつげん ひと たすう じかん お はつげん  
 発言する人が多数で、時間が押すほどの発言  
 をいただくことが出来ました。裏を返せば、  
 そういう意見を言う機会がやはり少ないので  
 はないかということを感じました。確かにこ  
 の全国大会は障害者の声を拾い上げることを  
 目的として開催されていますが、やはり普段  
 から声をあげられるような環境作りが今後



総会



分科会状況

必須となると思わされた全体会でした。  
 感謝ミサは長崎教区長：中村倫明大司教に  
 よる主司式で行われ、力障連担当司教である  
 前田枢機卿、また他教区から参加された司祭  
 も参列しました。朗読、共同祈願など様々な  
 教区からの参加者によって朗読され、会場に  
 いるすべての人によって捧げられた本当に良  
 いミサになったと思います。

2日間を通して、様々なミスはありました。  
 そのことにおいてご迷惑をおかけした方々には  
 ほんとう もう わけ おも ぜんたいで  
 ほんとうに申し訳なく思いますが、全体的にみ  
 れば良い大会ではなかったかと自画自賛した  
 い気持ちです。ただ、大会を準備していく中  
 でやはり教区における障害者への関心の薄さ  
 に危機感を覚えました。この大会をきっかけ  
 にということは大会準備中から話してきました  
 ましたが、ここからが本当の「障害者とともに歩  
 む」ことの始まりです。障害者を特別視する  
 のではなく、隣にすることがごく普通のこと  
 となり、そのための準備など常日頃から意識  
 することが今後大切になっていくのではない  
 かと思います。

何はともあれ長崎における全国大会は無事終了しました。今大会開催にあたってご協力いただいた皆様に感謝の意を申し上げます。今後変化していくであろう長崎教区を温かい目で見守っていただけると幸いです。

感謝のうちに



感謝ミサ



東 俊裕氏による基調講演

## ながさきたいかいきちょうこうえん き 長崎大会基調講演を聞いて

じむきょくちょう こいけ まさお  
事務局長 小池 政男

今回の大会の基調講演は東 俊裕氏による

「インクルーシブ防災～誰ひとり取り残さない社会～」でした。東氏は1953年に熊本に生まれ、生後1歳半で小児麻痺を患いましたが中央大学法学部を卒業して、2003年～2006年まで国連の障害者権利条約特別委員会の政府代表顧問を務めました。

2009年からは障害者権利条約批准に向けた障害者の制度改革に関わり、条約批准を機に2014年内閣障害者制度改革担当室長を辞め、その後は弁護士及び熊本学園大学教授に復帰しました。熊本地震の際には「被災地障害者センターくまもと」の事務局長に就任されました。その後、大学の定年退職を機に弁護士も休止しています。今回も車いすで講演していただきました。さらに嬉しいことに私が参加した分科会「みんなが同じ生活を営むにはどうすればよいだらう」（合理的配慮 障害者差別解消法）に参加して下さり、アドバイスをしてくれました。

講演内容は先ず2011年の東日本大震災で一般の死亡率が1%に対して障害者の死亡率は2倍であったと話し始めました。

災害は誰にでも平等に襲い掛かってきますが、その被害は弱い人々に重くのし掛かってくるのでその災害格差を生まないためにどうすべきと話し始めました。

防災対策の3本柱である予防対策、応急対策、復旧対策が、その全ての調整は内閣府が行っている。

1 予防対策のハード対策として河川、

かいがんかんり さぼうたいさく たいしんかとう こっこうしやう  
海岸管理、砂防対策、耐震化等は国交省  
が担当し、ソフト対策の防災知識の普及、  
けいはつ ぼうさいけいかく さくせい ひなん とう  
啓発、防災計画の作成、避難マニュアル等  
の整備は主に消防庁が担当している。

2 応急対策は、救出・救助は警察庁、防衛  
省、消防庁、海上保安庁等が担当している。

また、避難者支援は、厚生省、農水省、  
けいざいしやう もんかしやう きんきゆうゆうそう こっこうしやう  
経済省、文科省。緊急輸送は国交省、  
けいさつちやう かいじやうほあんちやう ぼうえいしやう たんとう  
警察庁、海上保安庁、防衛省が担当。

3 復旧・復興としての災害廃棄物、復旧事  
ぎやう ざいせいえんじよ さいがいちやういぎん かせつじゆうたく じゆう  
業、財政援助、災害弔慰金、仮設住宅、住  
きよいてん さいごうたいさく こようたいさく うけい ちやう  
居移転、雇用対策、ボランティア受入れ調  
せいとう かんきやうしやう こっこうしやう こうろうしやう のうすいしやう  
整等は環境省、国交省、厚労省、農水省、  
ふっこうちやう たんとう きしやうちやう こく  
復興庁が担当している。さらに気象庁、国  
ど ちりいん かくしやうちやう おこな かつどう じやうほうていきやうとう  
土地院は各省庁が行う活動を情報提供等  
により支援している体制が決まっている。

さいがい しょうがいしやなど じゆうようかだい  
災害における障害者等の重要課題として

## 1 事前の避難誘導

① 要配慮者利用施設入所者に対する取組  
へいせい ねんいわて こうれいしやせつ めい  
平成28年岩手の高齢者施設で9名が  
しぼう よくとし すいぼうほう どりやさいがいぼうしぼう  
死亡して翌年に水防法、土砂災害防止法が  
かいせい  
改正されました。

こうれいしや しょうがいしやなどく ぼうさいじやうはいりよ ぼう  
高齢者、障害者等特に防災上配慮を要す  
りようしせつ しんすい どりやほうかいそうていちいきない  
る利用施設が浸水や土砂崩壊想定地域内に  
た ばあい かくしやうそん じぜん  
建てられている場合は、各市町村が事前に  
指しておき、それを管理者の義務として  
ひなんかくほけいかく さくせい ひなんくんれん じっし ぎ  
避難確保計画の作成と避難訓練の実施が義  
務づけられている。しかしそれでも令和2  
ねん こうらう くまむら しぼうしや で  
年に豪雨で球磨村で死亡者が出てしまった。

② 在宅の避難行動要支援者に対する取組  
へいせい ねん さいがいたいさくきほんほう かいせい  
平成25年に災害対策基本法が改正され、  
ひなんこうどうようしえんしやめいぼ さくせい ぎむ か  
避難行動要支援者名簿の作成が義務化。

へいせい 30ねん にしにほんこうらう くらしきし めい  
平成30年の西日本豪雨で倉敷市で51名  
しぼうしや で  
の死亡者が出てしまった。

室内での死亡者43名のうち、1名が2  
かい めい かい な  
階、42名が1階で亡くなっていました。

はんぶん ひらや あと はんぶん かいだ  
その半分は平屋、後の半分は2階建てでし  
たが2階に上がることが出来なかったと思  
われれます。屋外での死亡者は8名でした。

な おお かつ ひなんこうどうようしえん  
亡くなった多くの方は、避難行動要支援  
者名簿に掲載していたにも関わらず個別  
避難計画は作成されていなかったことを受  
けて、令和3年同法が改正され、市町村に  
たい こべつひなんけいかく さくせい どりよくぎむか  
対し、個別避難計画の作成を努力義務化し  
ました。

けっか げんじてん ひなんこうどうようしえんしや  
その結果、現時点での避難行動要支援者  
めいぼ さくてい ぜんこく じちたい かんせい  
名簿の策定は全国の自治体が完成してい  
る。しかし、個別避難計画の策定が全て  
かんせい じちたい  
完成している自治体は7.9%しかない。一  
ぶ さくてい みさくてい じやうきやう  
部策定が59.2%、未策定が33.0%の状況  
である。非常に少ない。

こべつひなんけいかく でき ばあい こべつ  
個別避難計画が出来ている場合は個別に  
福祉避難所に避難できるが、出来ていな  
いとは一般の避難所に避難しなければ  
ならない。そして行政の選択を受けて  
福祉避難所に入れることになる。

ここまでは制度について説明されました  
が、ここからは2016年に発生した熊本地震  
たい しょうがいしやなど しえんたいせい でき  
に対して障害者等の支援体制がどれだけ出来  
ているのかを検証報告をしてくれました。

くまもとじしん さいだい さいだい  
熊本地震は最大マグニチュード7.3、最大  
震度7が発生しました。その時に障害者に  
とってまず避難所に行くことが大変でした。  
じっしつてき ひなんじよ しょうがいしや すがた  
実質的には避難所に障害者の姿はありません  
でした。

たと ひなんじよ つ ぶつりてきしやうへき  
例え避難所に着いたとしても、物理的障壁  
だんさ しょうがいしや うむ せいでてきしやうへき  
の段差、障害者トイレの有無。制度的障壁の  
しょうがいしや そうてい ひなんじよ うんえいきそく  
障害者を想定していない避難所の運営規則。  
しんりにてきしやうへきしょうがい たい むち むりかい  
心理的障壁の障害に対する無知・無理解によ  
る排除。またコミュニケーション不足で情報  
はいじよ はいじよ ぶそく じやうほう  
が届かないという状況でした。

そして福祉避難所についても、熊本市は

約170か所（主に高齢者、障害者施設）が福祉避難所に指定されていたが、行政が福祉避難所に移送するかを判断するために、施設名などは非公表になっている。また計画では7,430名の受け入れが可能となっていたが、実質的には元々の入居者で手一杯であった。なお避難行動要支援者数は約35,000人いた。計画そのものが絵にかいた餅状態であった。

一般及び福祉避難所では姿が見えなかった障害者はどこにいたのか。

崩れかけた自宅やアパートに取り残されていた。車の中での生活、危険で誰もいない公民館、病院や施設に駆け込んだ障害者、親戚を転々とする障害者でした。

当然公的支援だけでなく、社協や民間ボランティアの支援からも零れ落ちている。

支援体制の構築として障害者等に特化した災害支援体制構築の必要性

「被災地障害センターくまもと」を立ち上げて支援体制を構築致しました。

その支援内容を1枚のSOSチラシ（会の目的、連絡先、水の提供、夜間の介助、入浴支援、洗濯支援、壊れた物の撤去、運搬、修繕等の支援内容等記載）にして関係者には配布致しましたがなかなか障害当事者には届きませんでした。

そこで市と連携して、このチラシを市から広く配布してもらった結果、多くの障害者の方たちに届き、感謝の声と合わせて何故もっと早くこのチラシを配ってくれなかったのかと意見が届きました。早期の支援体制の構築が如何に必要かを実感したとのことでした。

災害ニーズへの対応

災害時に福祉サービスを必要としている

障害者に迅速で柔軟に提供することは、極めて重要である。

しかし、障害者の住環境や生活環境の破壊・喪失に対しては、既存の福祉サービスでは、対応できない。

しかも、住環境や生活環境の破壊は福祉サービスを受けていない軽度の障害者でも自力で何とかできるレベルではない。

そうした、福祉サービスでは賄えない被災障害者のニーズを拾い上げ、福祉の経験と知識を有するボランティア派遣などの災害支援の仕組みと体制の構築が必要。

障害者権利委員の総括所見

委員会は、締約国に以下に勧告する。

- 1 防災・減災、危険な状況及び人道上的緊急事態に関して、障害者のプライバシー及び合理的配慮を含む非差別の権利を強化するために災害対策基本法を改定すること。
- 2 危険な状況及び人道上の緊急事態において、提供される避難所や仮設住宅等のサービスが、年齢やジェンダーを考慮した上で、障害者を含め利用しやすく、障害を包容するものであることを確保すること。
- 3 障害者とその家族を含むコミュニティ全体が防災・減災計画に参加し、安全でアクセスしやすい集合場所、緊急時の避難所及び避難経路が明確にされた地域の拠点に根ざす個人ごとの緊急計画や支援システムを開発することにより、強靱なコミュニティを構築すること。
- 4 危険な状況及び人道上の緊急事態において、全ての障害者及びその家族が、利用しやすい様式及び適切な機器において、必要な情報を得られるよう確保すること。
- 5 仙台防災枠組2015-2030に従い、あらゆるレベルの防災計画・戦略及び気候変動

に関する政策が、障害者と共に策定され、あらゆるリスク状況において障害者特有のニーズに明示的に対応することを確保すること。

6 新型コロナウイルス感染症の負の影響に対応するためのワクチン、保健サービス、そのほかの経済・社会計画の均等な機会の確保を含め、新型コロナウイルス感染症への対応やその復旧計画において、障害者の権利を主流化すること。また、緊急時に障害者の脱施設化の措置をとり、地域社会で生活するための適切な支援提供をすること。

以上東先生の講演をお聞きして、先ず行政としての取り組み体制は内閣府を中心に関係省庁が協力して種々の災害対策が取られてきましたが、その中に障害者、高齢者等の人たちの対応が如何に低く扱われてきたかを感しました。

法律が段々と障害者等に対応したものが出来たとして、絵に描いた餅のように実質的には障害者への支援対策が出来ない風土に現在なっているように感じました。

最後にお話がありました障害者権利委員会の総括所見のように、これからは声を上げていく必要があると思います。

そして大切なことは行政だけの支援を待っているのではなく、「自分の命は自分で守る」ことを日頃から考えておく必要があると思います。

例えば事前に避難行動支援者名簿に登録していても本当に避難支援に来てくれるかどうか分かりません。その支援者も同じく被災をしているわけですから、その家族の救助、支援もありますし、交通手段も分断されてい

るとすれば支援したくても出来ないのが実情ではないでしょう。

そこで自分自身として事前にもしておくことは、自分の住んでいる住宅や職場地区は、危険なのか安全なのか、どんな被災が発生する危険性があるのかを先ず把握しておくことが大事だと思います。

河川の氾濫があった時に何m浸水するのか、2階に避難すれば大丈夫なのか、だめならどこに避難すれば良いのかを決めておいて避難訓練をしておくことにより、より安全に避難することが出来ると思います。

その他土砂崩壊地区なのか。津波が来るのか。地震はどの位のものが来るのか等把握しておく必要があると思います。市町村に行けばハザードマップ等がありますので事前に確認しておいてください。

また我が家は壊れないと思っていると、何の対策もしないことになってしまいますが、我が家は壊れるのだと考えて対策を取っておく必要があると思います。そのためには先ずは住まい用のテントまたは物置小屋、各種の防災用品、食料（5日～7日分）等、いつ地震等が発生しても良いように整備しておくことが自分の命を守ることになるのではないのでしょうか。

全国的に個別避難計画が完成している自治体は少ないようですが、自分が住んでいる自治体では出来ているのか確認しておく必要があると思います。

さらに被災した場合は、直接福祉避難所へ避難出来るよう交渉しておく必要があると思います。

そして「被災地障害者センターくまもと」のように、自分たちの市町村でも障害者のための支援体制が出来よう日頃から検討していく必要があるのではないかと感じました。

# ながさきぜんこくたいかい ぜんたいかい 長崎全国大会の全体会

ながさききょうく しさい かみさき しんいち  
長崎教区 司祭 紙崎 新一

ぜんたいかい じぜんじゅんび さんかしゃ にもん  
全体会は、事前準備として参加者に二問の  
しゅくだい ねが ねが もと  
宿題をお願いしていましたので、それに基づ  
き挙手も多くスムーズに進んで行くことがで  
きました。

その第一問は、今回の大会、特に自分が参  
加した分科会を通して得たこと、学んだこと、  
あた ほか ぶんかかい  
新しい発見などについてです。分科会は12  
あったので、発言者の内容はそれぞれ違って  
はつげんしゃ ないよう ちが  
いましたが、分かち合った内容には共通した  
わ あ ないよう きょうつう  
二つのテーマがあったように思います。

その一つは、今回の大会テーマの中でもあ  
った「ともにつんのうで（ともに集う）」です。  
ぶんかかい おのおのわ あ かっぱつ ぶん  
分科会は各々分かち合いは活発で、「この分  
かかい さんか みな はなし き  
科会に参加してよかった」「皆さんの話が聞  
けてよかった」など、障害者のことで一緒に  
わ あ よろこ かんしゃ の  
分かち合えたことへの喜びや感謝が述べられ  
ました。これは、裏を返せば障害者が抱える  
もんたい ひごろわ あ ぼ とも い  
問題を日頃分かち合える場や友がいないと言  
うことなのでしょう。例えば、見えない・聞  
こえない人に対する対応がわからないからか  
とお ひと せいしん ちてきしょうがいしゃ たい  
遠ざかる人たち、精神や知的障害者に対して  
はその度ごとにさらに増えているようです。

もう一つのテーマは、「差別」です。「差  
べつ だい ぶんかかい びょうしゃ くわ  
別」は第3分科会のハンセン病者のことで詳  
しく話されていますが、上の例からもわかる  
ように、障害者への差別や偏見は常態化し  
しょうがいしゃ さべつ へんけん じょうたいか  
社会構造的差別となっています。そのため、  
しゃかいこうぞうてきさべつ  
「差別」は無意識のうちに行っているの  
さべつ むいしき おこな  
ので、「差別」をしているという自覚がありません。  
せいしん ちてきしょうがいしゃ ひと びょうき くる  
精神や知的障害者の人たちからは、病気で苦  
しむだけでなく、社会から差別を受け、がん  
ばりや努力がたりないとかあまいなどと身内  
どりよく みうち  
からも差別を受けるといふ三重の苦しみを味

わっている悲痛な現状が語られていました。  
ひつう げんじょう かつ  
社会構造的差別は教会の中でも同じで、  
しゃかいこうぞうてきさべつ きょうかい なか おな  
障害者にとって教会も安らぎや癒しの場とな  
しょうがいしゃ きょうかい やす いや ば  
っていない現状が見えてきます。精神障害を  
げんじょう み せいしんしょうがい  
はじめ障害者のことを少しでも知ろうとして  
しょうがいしゃ すこ し  
欲しいとの障害者から信徒の皆さんへのお願い  
ほ しょうがいしゃ しんと みな ねが  
いは切実なものでした。教会の中でこそ差別  
せつじつ せつじつ きょうかい なか さべつ  
や偏見に向き合い、もっと積極的に障害者に  
へんけん む あ せつきよくてき しょうがいしゃ  
寄り添うことが必要です。

たぶん、この問題は毎回のようにならなくて  
いけるのではないのでしょうか。教会の中でこそ  
せつきよくてき と く もんたい  
積極的に取り組むべき問題であるはずなのに  
せつきよくてき と く もんたい  
進展がないとなると、中央協議会には部落差  
しんてん ちゅうおうきょうざikai ぶらくさ  
べつじんけんいんかい  
別人権委員会がありますのでこの中で、ある  
しょうがいしゃ さべつじんけんいんかい ほっそく  
いは障害者差別人権委員会なるものを発足し  
いただ ちゅうおうきょうざikai せつきよくてき けんどう  
て頂き、中央協議会で積極的に検討するとと  
しょうれん れんけい と く  
もに、カ障連と連携して取り組むくらの  
せつきよくてき はじ ねんご おな  
積極的なことを始めなければ、3年後も同じ  
もんたい あ  
問題が上がってくることになるでしょう。

ぜんたいかい じぜんじゅんび さんかしゃ ねが  
全体会の事前準備として参加者にお願いし  
しゅくだい だいにもん こんご きょうかい きょうく  
た宿題の第二問は、今後の教会（教区）への  
ていあん しょうれん ていあん さつそく  
提案とカ障連への提案についてです。早速の  
ていあん こうれいしゃ ふく しょうがいしゃ もんたい  
提案が、高齢者を含む障害者の問題について、  
これからのカトリック教会の行く道を示す  
ていあん だ と  
提案を出してくれるアンケートを採るとい  
ことでした。これは、関心のない人も含めた  
にんい ほうしき  
任意のアンケート方式ではなく、しっかりと  
いけん も ひと じっこういんかいほうしき  
した意見を持つ人、いわゆる実行委員会方式  
のアンケートを採って頂くという提案です。  
さちょう ていあん ぜんこく しょうれんじむきよく さつそく  
とても貴重な提案で全国カ障連事務局で早速  
じゅんび おも  
準備すべきことと思います。

その他、全国カ障連事務局に精神障害者を  
い ぼ しょうがいしゃ  
入れて欲しいとか、障害者のグループLINE  
をつく たいかい ひと さいかい  
を作ろうとか、大会でいろんな人と再会でき  
よるこ こんかい たいかい で む い きょうかい  
た喜びから、今回の大会に出向いて行き教会  
ひと かん すこ ゆうき だ  
は一つだと感じたので、少しだけ勇気を出し  
てちょっとだけ心を開いてそのちょっとした



ゆうきもひとであ  
勇氣を持っていろんな人と出会って  
いこうと  
ほんにん けつひひょうめい どうじ みな ていあん  
いう本人の決意表明と同時に皆さんへの提案  
や、障害者<sup>しょうがいしゃ</sup>にしてくれないと嘆く<sup>なげ</sup>ことが多い  
が、してくれないだけでなく自分<sup>じぶん</sup>からすると  
いう積極性<sup>せつきょくせい</sup>を持つよう心がけてい  
きましょう  
という提案<sup>ていあん</sup>に多く<sup>おほ</sup>の人が賛同<sup>さんどう</sup>していました。

今回の分科会<sup>ぶんかかい</sup>から導<sup>みちび</sup>かれた全体会<sup>ぜんたいかい</sup>を通<sup>とお</sup>し  
て、障害者<sup>しょうがいしゃ</sup>の多くは日々の生活<sup>せいかつ</sup>の中<sup>なか</sup>では孤立<sup>こりつ</sup>  
し孤独<sup>こどく</sup>な状態<sup>じょうたい</sup>に置<sup>お</sup>かれていることが鮮明<sup>せんめい</sup>に打  
ち出<sup>だ</sup>されたように思<sup>おも</sup>います。教会<sup>きょうかい</sup>にもこのよ  
うな障害者<sup>しょうがいしゃ</sup>同士<sup>どうし</sup>あるいは障害者<sup>しょうがいしゃ</sup>と信徒<sup>しんとう</sup>が分<sup>わ</sup>か  
ち合<sup>あ</sup>える場<sup>ば</sup>、話<sup>はな</sup>す場<sup>ば</sup>をつくって行くことが必<sup>ひつ</sup>  
要<sup>よう</sup>です。しかし、私<sup>わたし</sup>たちが忘<sup>わす</sup>れてならないこ  
とがあります。それは主<sup>しゅ</sup>の存在<sup>そんざい</sup>です。主<sup>しゅ</sup>こそ  
特に障害者<sup>しょうがいしゃ</sup>とともに歩<sup>あゆ</sup>んでくださいました。  
わたしたちの集<sup>あつ</sup>まりには福音<sup>ふくいん</sup>の響<sup>びび</sup>きが絶対<sup>ぜったい</sup>に必要<sup>ひつよう</sup>  
です。みことばを携<sup>たずさ</sup>えてともに分<sup>わ</sup>かち合<sup>あ</sup>いな  
がら、少<sup>すこ</sup>しでもイエスの心<sup>こころ</sup>である福音<sup>ふくいん</sup>の響<sup>びび</sup>き  
に共鳴<sup>きやうめい</sup>し、お互<sup>たが</sup>いがその心<sup>こころ</sup>で倒<sup>たお</sup>れている人<sup>ひと</sup>に  
とっての隣人<sup>りんじん</sup>となる<sup>なり</sup>ときに、障害者<sup>しょうがいしゃ</sup>とともに  
歩<sup>あゆ</sup>む教会<sup>きょうかい</sup>も実現<sup>じつげん</sup>していく<sup>い</sup>くのでしょ  
う。そのよ  
うな集<sup>あつ</sup>いの場<sup>ば</sup>を創<sup>つく</sup>っていくことが、今<sup>こん</sup>回の長  
崎全国大会<sup>さきぜんこくたいかい</sup>のテーマ「ともに…つんのうで」  
インクルーシブ（誰<sup>だれ</sup>ひとり残<sup>のこ</sup>さない社会<sup>しゃかい</sup>  
を目指<sup>めざ</sup>して）から導<sup>みちび</sup>き出<sup>だ</sup>された急務<sup>きゅうむ</sup>の課題<sup>かだい</sup>  
あり、障害者<sup>しょうがいしゃ</sup>とともに歩<sup>あゆ</sup>む教会<sup>きょうかい</sup>づくりの第一<sup>だいいち</sup>  
歩<sup>あゆ</sup>として、各教区<sup>かくきょうく</sup>、小教区<sup>しょうきょうく</sup>で取<sup>と</sup>り組<sup>く</sup>んで行<sup>い</sup>  
なければならぬ課題<sup>かだい</sup>ではない<sup>ではない</sup>でしょうか。



# だい かいにほん 第14回日本カトリック しょうがいしゃれんらくきやうぎかい 障害者連絡協議会 ながさきぜんこくたいかい さんか 長崎全国大会に参加して

つるまき けんじ  
鶴巻 健二

こんたいかい さんか まえ あと きも か  
今大会に参加する前と後で気持ちが変<sup>か</sup>わっ

たような気<sup>き</sup>がします。

じつ こんたいかい しゅっせき き すうじつまえ  
実は今大会<sup>こんたいかい</sup>に出席<sup>しゅっせき</sup>を決<sup>き</sup>めたのは数日<sup>すうじつまえ</sup>前<sup>まえ</sup>でし  
た。数日<sup>すうじつまえ</sup>前に担<sup>たん</sup>当<sup>とう</sup>の紙<sup>かみ</sup>崎<sup>さき</sup>神<sup>しん</sup>父<sup>ぶ</sup>様<sup>さま</sup>に電<sup>でん</sup>話<sup>わ</sup>して、  
さんか  
参加<sup>さんか</sup>するよ<sup>よう</sup>にしまし<sup>した</sup>。それま<sup>ま</sup>では参加<sup>さんか</sup>  
な<sup>な</sup>く<sup>く</sup>てい<sup>い</sup>か<sup>か</sup>な<sup>な</sup>あ<sup>あ</sup>と考<sup>かんが</sup>えて<sup>い</sup>た<sup>た</sup>の<sup>の</sup>です<sup>す</sup>が、あ  
る<sup>と</sup>き<sup>き</sup>さん<sup>さん</sup>か<sup>か</sup>お<sup>おも</sup>い<sup>い</sup>ま<sup>ま</sup>し<sup>した</sup>。この<sup>この</sup>ふ<sup>ふ</sup>と  
かん かん おも かんが みちび  
感<sup>かん</sup>じ<sup>じ</sup>た<sup>た</sup>この<sup>この</sup>思<sup>おも</sup>い<sup>い</sup>が<sup>が</sup>神<sup>かみ</sup>さ<sup>さ</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>導<sup>みちび</sup>き<sup>き</sup>だ<sup>だ</sup>った<sup>た</sup>の<sup>の</sup>かな  
あ<sup>あ</sup>と<sup>と</sup>思<sup>おも</sup>い<sup>い</sup>ま<sup>ま</sup>す<sup>す</sup>。で<sup>で</sup>す<sup>す</sup>の<sup>の</sup>で<sup>で</sup>2<sup>に</sup>日<sup>にち</sup>目<sup>め</sup>に<sup>に</sup>参<sup>さん</sup>加<sup>か</sup>でき<sup>き</sup>ま  
お<sup>おも</sup>い<sup>い</sup>ま<sup>ま</sup>す<sup>す</sup>。今<sup>いま</sup>思<sup>おも</sup>え<sup>え</sup>ば<sup>ば</sup>ミ<sup>み</sup>サ<sup>さ</sup>を<sup>を</sup>ほ<sup>ほ</sup>か<sup>か</sup>の<sup>の</sup>神<sup>しん</sup>父<sup>ぶ</sup>様<sup>さま</sup>  
に  
お<sup>ねが</sup>い<sup>い</sup>す<sup>す</sup>れ<sup>れ</sup>ば<sup>ば</sup>よ<sup>よ</sup>か<sup>か</sup>った<sup>た</sup>な<sup>な</sup>あ<sup>あ</sup>と<sup>と</sup>感<sup>かん</sup>じ<sup>じ</sup>て<sup>い</sup>ま<sup>ま</sup>す<sup>す</sup>。  
すうじつまえ かんが しんぶさま  
数日<sup>すうじつまえ</sup>前<sup>まえ</sup>で<sup>で</sup>した<sup>た</sup>の<sup>の</sup>で<sup>で</sup>代<sup>か</sup>わ<sup>わ</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>神<sup>しん</sup>父<sup>ぶ</sup>様<sup>さま</sup>が<sup>が</sup>い<sup>い</sup>な<sup>な</sup>く、  
しんじや れんらく か  
信<sup>しん</sup>者<sup>じや</sup>さん<sup>さん</sup>た<sup>た</sup>ち<sup>ち</sup>に<sup>に</sup>連<sup>れん</sup>絡<sup>らく</sup>も<sup>も</sup>でき<sup>き</sup>な<sup>な</sup>か<sup>か</sup>った<sup>た</sup>の<sup>の</sup>で、2<sup>に</sup>日<sup>にち</sup>  
め わたし こ ぜ と しゅうかいじよ さき さん  
目<sup>め</sup>は<sup>は</sup>私<sup>わたし</sup>が<sup>が</sup>い<sup>い</sup>る<sup>る</sup>小<sup>こ</sup>瀬<sup>せ</sup>戸<sup>と</sup>集<sup>じ</sup>会<sup>かい</sup>所<sup>じょ</sup>で<sup>で</sup>ミ<sup>み</sup>サ<sup>さ</sup>を<sup>を</sup>捧<sup>ささ</sup>げ、<sup>さん</sup>  
か  
加<sup>か</sup>し<sup>し</sup>て<sup>て</sup>い<sup>い</sup>る<sup>る</sup>皆<sup>みな</sup>さん<sup>さん</sup>の<sup>の</sup>た<sup>た</sup>め<sup>め</sup>に<sup>に</sup>祈<sup>いの</sup>ら<sup>ら</sup>せ<sup>せ</sup>て<sup>て</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>い<sup>い</sup>ま<sup>ま</sup>し<sup>した</sup>。  
にちめ かんそう  
た。で<sup>で</sup>す<sup>す</sup>の<sup>の</sup>で<sup>で</sup>1<sup>にち</sup>日<sup>にち</sup>目<sup>め</sup>だ<sup>だ</sup>け<sup>け</sup>の<sup>の</sup>感<sup>かん</sup>想<sup>そう</sup>に<sup>に</sup>な<sup>な</sup>り<sup>り</sup>ま<sup>ま</sup>す<sup>す</sup>。

ほんたいかい まえ そうかい  
本<sup>ほん</sup>大<sup>たい</sup>会<sup>かい</sup>の<sup>の</sup>前<sup>まえ</sup>に<sup>に</sup>総<sup>そう</sup>会<sup>かい</sup>が<sup>が</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>ま<sup>ま</sup>し<sup>した</sup>が、<sup>その</sup>  
そうかい とき しょうがいしゃ さべつ かいしょうほう  
総<sup>そう</sup>会<sup>かい</sup>の<sup>の</sup>時<sup>とき</sup>に<sup>に</sup>「障<sup>しょう</sup>害<sup>がい</sup>者<sup>しゃ</sup>差<sup>さ</sup>別<sup>べつ</sup>解<sup>かい</sup>消<sup>しょう</sup>法<sup>ほう</sup>」<sup>の</sup>こ<sup>こ</sup>と<sup>と</sup>や  
しょうがいしゃ さべつ ごうりてきはいりよ せつめい  
障<sup>しょう</sup>害<sup>がい</sup>者<sup>しゃ</sup>差<sup>さ</sup>別<sup>べつ</sup>と<sup>と</sup>合<sup>ごう</sup>理<sup>り</sup>的<sup>てき</sup>配<sup>はい</sup>慮<sup>りょ</sup>に<sup>に</sup>つ<sup>つ</sup>い<sup>い</sup>て<sup>て</sup>の<sup>の</sup>説<sup>せつ</sup>明<sup>めい</sup>を<sup>を</sup>  
さ  
れ<sup>れ</sup>ま<sup>ま</sup>し<sup>した</sup>。こ<sup>こ</sup>れ<sup>れ</sup>を<sup>を</sup>聞<sup>き</sup>いた<sup>た</sup>と<sup>と</sup>き<sup>き</sup>に、<sup>ほとんどの</sup>  
ひと い ふつう ひと  
人<sup>ひと</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ま<sup>ま</sup>す<sup>す</sup>か、<sup>普通</sup>の<sup>の</sup>人<sup>ひと</sup>た<sup>た</sup>ち<sup>ち</sup>は<sup>は</sup>こ<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>こ<sup>こ</sup>と<sup>と</sup>を<sup>を</sup>  
し  
知<sup>し</sup>ら<sup>ら</sup>な<sup>な</sup>い<sup>い</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>う<sup>う</sup>か<sup>か</sup>避<sup>さ</sup>け<sup>け</sup>て<sup>て</sup>い<sup>い</sup>る<sup>る</sup>の<sup>の</sup>で<sup>で</sup>な<sup>な</sup>い<sup>い</sup>か<sup>か</sup>な  
あ<sup>あ</sup>と<sup>と</sup>感<sup>かん</sup>じ<sup>じ</sup>ま<sup>ま</sup>し<sup>した</sup>。

わたしじん ねん のうしゅけつつ みぎはん  
私<sup>わたし</sup>自<sup>じ</sup>身<sup>しん</sup>は<sup>は</sup>2012<sup>ねん</sup>年<sup>ねん</sup>に<sup>に</sup>脳<sup>のう</sup>出<sup>しゅ</sup>血<sup>けつ</sup>を<sup>を</sup>お<sup>お</sup>こ<sup>こ</sup>し<sup>し</sup>て<sup>て</sup>右<sup>みぎ</sup>半<sup>はん</sup>  
しんふずい  
身<sup>しん</sup>不<sup>ふ</sup>随<sup>ずい</sup>に<sup>に</sup>な<sup>な</sup>り<sup>り</sup>ま<sup>ま</sup>し<sup>した</sup>。で<sup>で</sup>す<sup>す</sup>か<sup>か</sup>ら、<sup>それから</sup>は  
ある つえ そうぐ ある  
歩<sup>ある</sup>く<sup>く</sup>と<sup>と</sup>き<sup>き</sup>は<sup>は</sup>杖<sup>つえ</sup>と<sup>と</sup>装<sup>そう</sup>具<sup>ぐ</sup>が<sup>が</sup>な<sup>な</sup>け<sup>け</sup>れ<sup>れ</sup>ば<sup>ば</sup>歩<sup>ある</sup>く<sup>く</sup>こ<sup>こ</sup>と<sup>と</sup>が  
で き いま こうふん  
出<sup>で</sup>来<sup>き</sup>ま<sup>ま</sup>せ<sup>せ</sup>ん。今<sup>いま</sup>で<sup>で</sup>も<sup>も</sup>興<sup>こう</sup>奮<sup>ふん</sup>し<sup>し</sup>て<sup>て</sup>し<sup>し</sup>ゃ<sup>や</sup>べ<sup>べ</sup>ると<sup>と</sup>よ<sup>よ</sup>だ  
れ<sup>れ</sup>が<sup>が</sup>出<sup>で</sup>ま<sup>ま</sup>す。こ<sup>こ</sup>う<sup>こう</sup>い<sup>い</sup>う<sup>う</sup>体<sup>からだ</sup>に<sup>に</sup>な<sup>な</sup>っ<sup>つ</sup>て<sup>て</sup>か<sup>か</sup>ら、<sup>こう</sup>  
ひと せつ きかい おお てちょう も  
い<sup>い</sup>う<sup>う</sup>人<sup>ひと</sup>た<sup>た</sup>ち<sup>ち</sup>と<sup>と</sup>接<sup>せつ</sup>す<sup>す</sup>機<sup>き</sup>会<sup>かい</sup>が<sup>が</sup>多<sup>た</sup>い<sup>い</sup>（手<sup>て</sup>帳<sup>ちょう</sup>を<sup>を</sup>持<sup>も</sup>っ  
て<sup>て</sup>い<sup>い</sup>る<sup>る</sup>と<sup>と</sup>平<sup>へい</sup>日<sup>じつ</sup>、<sup>リハビリ</sup>が<sup>が</sup>でき<sup>き</sup>る<sup>る</sup>場<sup>ば</sup>所<sup>じょ</sup>が<sup>が</sup>あ<sup>あ</sup>り、  
い しょうがい も ひと であ  
そ<sup>そ</sup>こ<sup>こ</sup>に<sup>に</sup>行<sup>い</sup>き、<sup>いろいろな</sup>障<sup>しょう</sup>害<sup>がい</sup>を<sup>を</sup>持<sup>も</sup>つ<sup>つ</sup>人<sup>ひと</sup>と<sup>と</sup>出<sup>であ</sup>会<sup>かい</sup>

っている)ので、「障害者差別解消法」のこと  
や障害者差別と合理的配慮については普通の  
人たちはよりはわかるとおもいます。この間ある  
神父様からこう言われました。「お前を見て  
いるから障害者について少しはわかるようにな  
ったが、実際に会わないと普通の人たちは  
わからないと思う。」ですからその出発点に  
私かなればいいのか、とおもいました。

本大会の方でも講話やグループに分かれて  
の話(私はハンセン病についてのところでは  
た)、交流会、すべてが私にとって有意義な  
ものでした。他教区の方々とも話ができて、ま  
たこれを機にいろいろつながりができた、  
それもまたうれしかったです。そしてボラン  
ティアの人たちに感謝です。ですが、この  
ボランティアに来ていた人たちもそれぞれ  
障害者について勉強できたのではと思いま  
す。

本当に濃い1日でした。今からも障害を持  
つ仲間として皆さんのために祈ります。

## 第14回力障連大会に参加して

しおぎきみほこ  
塩崎美穂子

私は、声の奉仕会・マリア文庫の一員とし  
て長崎全国大会に参加しました。長崎教区福  
祉関係団体への呼びかけを受けて、月に一度  
の大会準備委員会にはマリア文庫から2名、  
2022年からの実行委員会には4名の会員が  
参加。(長崎大会総責任者の)紙崎神父様か  
らの問題提起「障害とは？」から始まった長  
い長い準備期間、テーマ・日時・場所決め  
等、もちろん事務局の片岡さんは調整が大変  
だったと思いますが、私など出席するのみで  
のんびりとした気分で(実行委員会議での)  
みことばの分かち合いに興味津々で参加して

おりました。そのうち大会アピールのための  
各教会巡りが開始、あっという間に大会が目  
前に迫ってきたのです。

私たちは、視覚障害者、その他の障害によ  
って読書できない方たちのために録音図書  
制作しているボランティアグループです。カ  
トリック系の月刊誌等を中心に、依頼があ  
れば単行本の音読も引き受けています。全国の  
視覚障害者情報提供のネットワークであるサ  
ピエ図書館の詳細検索で読みたい本を検索し  
たら所蔵図書館名が出るので、そちらから借  
りることができます。検索でマリア文庫と出  
たら連絡をくださればすぐに貸し出しを致し  
ます。

長崎大会では、マリア文庫の利用者4名の  
方とお会いでき、少しの時間でしたが直接お  
しゃべりすることができました。大会直前に  
スケジュールの音訳CDを6名の方に送りま  
したが、お役に立ったでしょうか？実行委員  
は「視覚障害者のサポートを」と言われてい  
ましたが、大会当日はそれぞれ付き添いの方  
が同行されていて、私たちは見守るだけで何  
の心配もなく過ごせました。基調講演の音声  
ガイドも一応こころづもりをしていました  
が、講師の東先生の説明でじわじわと災害が  
押し寄せてきた様子もわかり、災害時の障害  
者の方の恐怖も伝わりましたので、私たちの  
ガイドは不要でした。講演後の分科会では  
12の教室のどこも満杯で、一番広い学習室  
に入れてもらい参加者の方たちの活発な意見  
交換に耳を傾けました。2日目の全体会でも  
感じたことですが、この大会は障害者の方た  
ちが主人公だということ、主張したいことを  
あふれるほどお持ちだということ、ボラン  
ティアの人たちはそれをちゃんと受け止めてま  
ずは知ることが大切なのだということ  
を彼ら彼女らの発言からひしひしと感じました。

準備の段階でいろいろなことがありましたが、三ツ山のきれいな空気がすべてを大きく包み込んで、あっという間に終わってしまいました。終わって1か月が過ぎた今、以前江戸会長が「社会から障害がなくなれば障害者はいなくなる」とおっしゃったことを、改めて思い出しています。

## 第14回力障連長崎全国大会

「ともに…つんのうで！」

ボランティアに参加して

長崎教区 稲佐教会 久松 千春

はじめに『第14回力障連長崎全国大会「ともに…つんのうで！」』の開催、無事に終了、関係者の皆さまお疲れ様でした。

力障連全国大会は、九州で初めて開催されたこと。

私は2011年に障害者になって、紙崎神父様より名古屋で行われる力障連全国大会に参加してみませんかとお誘いを受けて、何もわからず長崎教区の皆さんと名古屋に行ったのですが、障害者になって旅をするのも初めてのことで、一緒に名古屋大会に参加した皆さんといろいろなこともありましたが、とっても楽しい有意義な実り多い旅になりました。

「力障連名古屋大会」で一番覚えているのは、ボランティアの皆さんがすごく親切で優しく生き生きと活動されていたのを覚えています。そこで、私も長崎大会でボランティアはできそうにないけどちょっとしたお手伝いをお願い（私が肢体不自由なので…）、「自分の教会で参加者の名札作成とかならできるでしでしょうか？」と稲佐教会に長崎大会の説明に来られた事務局の方にお話をしましたら、なんと、実行委員会の議事録作成を担当

することになり、主任神父様にも稲佐教会でPC他いろいろ使わせていただく許可をいただき、もちろん心良く承諾してくださりひと安心。Zoom会議も初めてで「録画できるからゆっくり作成していいですよ」と言っていたが、当初の私の言った名札作成もさせていただき、他はあまり役に立っていないけどほんの少しだけのボランティア活動をさせていただきました。

そして途中からお手伝いしたので以前の資料を見させていただいたのですが、長崎大会を実施するにあたっての立ち上げの準備委員会から実行委員会に移行され、途中新型コロナの影響で延期…また延期の年をへて今年ようやく実施の運びとなり、担当神父様方をはじめ実行委員会の皆さま方のご苦勞は大変なものだったと感じました。

それでも無事に長崎大会が感謝のミサをささげられて皆さまの心はヨハネ・パウロ2世



教皇さまに書いていただいたシンボルマーク一つ『わ』のように『一つの輪になって一緒に進み、キリストの精神によって歩む

ことの大切さ』を感じ取られたのではないかと思います。

最後に長崎教区の今回の大会を終えた後に「力障連 長崎支部」の発足を進めていらっしゃるのと、その願いがどうか実現するようにとお祈りするばかりです。

どうか皆さまも「力障連 長崎支部」の実現にたくさんのお祈りをよろしくお願いいたします。

# だい 第14期 き やくいんしょうかい 役員紹介



顧問司教、日本カトリック障害者  
連絡協議会を支援する会  
会長 前田 万葉 枢機卿  
おおさかたかまつ  
(大阪高松)



協力司祭 英 隆一朗 神父  
おおさかたかまつ  
(大阪高松)



会長 江戸 徹  
(名古屋)  
したいしょうがい くるまいす  
肢体障害・車椅子



副会長 田中 実  
おおさかたかまつ  
(大阪高松)  
はつたつしょうがいきつおんしょう  
発達障害吃音症



副会長 内野 直幸  
おおさかたかまつ  
(大阪高松)  
しかくしょうがい  
視覚障害



事務局長・機関誌担当 小池 政男  
(さいたま)



書記・機関誌担当 江藤さおり  
(長崎)



会計 片岡 英和  
(長崎)



運営委員 白柳 聡  
(東京)  
ちょうかくしょうがい  
聴覚障害



運営委員 佐藤 了 神父  
(東京)  
はつたつしょうがいきつおんしょう  
発達障害吃音症



運営委員 辻 なおや 直哉  
(名古屋)  
したいしょうがい くるまいす  
肢体障害・車椅子



運営委員 富永 諒  
(名古屋)  
しかくしょうがい  
視覚障害



運営委員 おぎの ふみこ 文子  
(広島)



監事 村上 かつ  
(名古屋)



監事 あおの ちえみ 知恵美  
(東京)



オブザーバー 入口 母絵  
(名古屋)  
なんちよう  
難聴

れんらくさきおよ にゅうかい もう こ さき  
連絡先及びご入会の申し込み先

じ む きょく じょう じょうわくえほうちよう  
事務局：〒466-0037 名古屋市昭和区恵方町2-15  
なご ぎやうく ふくしいんかいしつない  
名古屋教区カリタス福祉委員会室内  
にほん しょうがいしゃれんらくきょうぎかい  
日本カトリック障害者連絡協議会  
Tel：052-852-1426 fax：052-852-1422

ゆうびんきょくふりかえこう ぎぼんごう  
郵便局振替口座番号：00100-7-31254

どうふう ふりこみようし りよう  
(同封の振込用紙をご利用ください)

かい ひ ねんかん くち えん  
会 費：年間1口 1,000円  
(団体 10口以上 個人 1口以上)

かにゅうしゃめい にほん しょうがいしゃれんらくきょうぎかい  
加入者名：日本カトリック障害者連絡協議会